長期的にみた都市交通問題の解決方策に関する研究

Study on the solution of urban transportation problem
from a long term viewpoint

天 野 光 三　塚 本 直 幸
Kozo AMANO Naoyuki TSUKAMOTO

研究成果の概要

世界中のほとんど全ての都市において、都市交通問題は大きな課題である。とりわけ、都市交通の中でも自動車交通は、道路混雑や交通事故等のいわゆる交通問題にとどまらず、都市の生活環境破壊、都市や国の財政負担、地球温暖化等の広範囲な社会・経済・環境システムへの大きな影響が問題視され、その解決が焦眉の課題となっている。近年では、地球環境への影響も含めた全世界規模での問題の大きさが指摘され、「持続可能な交通」（Sustainable Transport）という表現もされている。

これに対して、各国・各都市において様々な取り組みがなされている。例えば、ヨーロッパでは公共交通と歩行者の優先が鮮明であり、それが市民に定着しているのに対し、アジアではほとんどその正反対ともいえる。わが国では、関係官庁主管範囲の複雑性にも起因して、公共交通，マイカー，歩行者相互の優先性が、はなはだあいまいになっていることが特徴である。

このような背景に基づいて、本研究組織では、わが国における抜本的な都市交通の基本的施策の研究を目的として、都市の自動車交通の問題点の分析、西欧とアジアの都市交通事情の比較、西欧の都市等で実施されている都市交通対策の先進的な事例収集と分析を行い、長期的観点からわが国における都市問題解決のための方策について考察した。

わが国では、都市交通を構成する公共交通、歩行者、マイカーの相対的優先度の基本的考え方があいまいで、長期的な見通しに立脚した総合的都市交通計画・政策が十分に機能しているとは言えない。それに比して、西欧諸都市では、長年にわたる市民の選択と評価を経て、都市交通問題に対する対応策が確立している。それは一口に言えば、公共交通と歩行者の優先であり、その裏腹の関係としての自動車の規制・抑制である。

我が国においても、近年、TDM(Traffic Demand Management)と言われる道路施設や都市規模に見合った交通のあり方に基づいて適正に自動車利用を規制する考え方、あるいはLRTへの補助政策、道路構造令改正に伴う歩道断面の広幅員化等、一定の公共交通・歩行者優先と自動車の規制・抑制の方向性が見られないわけではない。しかし、その速度はけっして速いとは言えず、ごく一例としてあげれば公共交通の共通運賃制ひとつとっても抜本的に改善される大きな動きはまだまだ不十分と思われる。

言うまでもなく、本研究で調査した西欧諸都市の様々な事例をわが国の都市にそのまま

直輸入すべきだとは思わないが、これらの成功例を参考とし、これを消化して、わが国の社会的・地理的・文化的風土に適合した、日本的な都市交通政策を見出していくべきである。行政・交通事業者と市民が一体となり、常識のカラを破って相互の理解と英知を集め、それを実施に移していく勇気が必要なのではなかろうか。